

# 小松商工会議所（石川県）

## オープンファクトリー「GEMBAモノづくりエキスポ」

優秀賞

### 受賞者概要

- ◆ 小松市は、九谷焼、絹織物等の伝統工芸や、世界的な建設機械メーカー等が集積する「ものづくりのまち」として発展してきた。
- ◆ 2024年3月の北陸新幹線・小松駅開業により、人・モノの交流がますます盛んになることが予測される。このため、小松市の自然や歴史文化と「ものづくり」産業をつなげて観光資源とした交流人口の拡大を目指している。
- ◆ 産業観光については、「おとなの社会見学」（小松商工会議所主催）等、“産業観光”が根付くよう様々な施策をこれまで実施してきた。こうした経緯があり、企業も受入れに前向きな土壌ができている。



◀日本遺産「こまつの石文化」の石切り場見学

### 功績点

#### 1. 体験プログラムから参加企業のビジネスにつなげる

- ◆ 「GEMBAモノづくりエキスポ」では、工場や工房の見学を観光商品化し、販売している。
- ◆ 体験プログラムを「イベント型」から「通年販売」への移行を目指し、商品・販路開拓チーム」結成。専門家の支援のもと、商品開発やその販路開拓を推進するスキームを設計した。
- ◆ これは参加者に、ものづくりの職人の技や思いを体感してもらうことで、その価値に納得して商品を購入してもらうためのもの。体験料金だけでなく、商品の販売にもつなげる。これにより、事業の持続性向上を見込んでいる。

#### 2. 異業種との交流で、新しいビジネス創出の土壌をつくる

- ◆ プロジェクト参画事業者が、「GEMBAモノづくりエキスポ」に参画する他の様々な業種の事業者と交流できる「GEMBAサロン」を開催。会社の枠を超えた仲間をつくり、世代や業種を超えた多様性あるコミュニティが形成されている。
- ◆ 同サロンには、ベテラン経営者や若手クリエイター、大学生等が参加。相互に連携して、マーケティング課題の解決等に取り組んでいる。



▲産業観光の取組によって、国内外の旅行会社によるツアー・教育旅行の受入につながっている

# 室蘭商工会議所（北海道）

## 24時間滞在型 撮りフェス in 室蘭

きらり特別賞  
(地域資源活用)

### 受賞者概要

- ◆ 室蘭市では、室蘭市・室蘭観光協会・室蘭商工会議所が三位一体となって、「室蘭観光推進連絡会議」を結成し、地域資源を活用して、工場夜景やインフラツーリズムに取り組んでいる。
- ◆ 「24時間滞在型 撮りフェス in 室蘭」は、室蘭市の地域資源を活用。知名度向上や交流人口増加による地域活性化、郷土の豊かな自然や個性ある文化を活かした魅力あるまちづくりの推進に資することを目的として、「世界がまだ知らない室蘭を撮りに行こう。」をキャッチフレーズに、2016年度から開始した。

### 功績点

#### 1. 地域の資源を活用した誘客・滞在促進

- ◆ 「24時間滞在型 撮りフェス in 室蘭」は、室蘭市内に24時間滞在。市内を自由に散策しながら、室蘭が持つ「被写体」としての魅力写真を収めていく滞在型のフォトイベント。
- ◆ 室蘭市は、幻想的な“工場夜景”をはじめとする人工的な景観と、北の大自然がつくり出す壮大な“自然景観”が奇跡的に共存。室蘭市を「日本一のフォトジェニックシティ」として打ち出し、地域資源を活用している。
- ◆ また、24時間という制限時間を設けることで、参加者が一堂に集まる機会を創出。これにより、飲食や交通、宿泊の利用につなげ、経済波及効果を生み出している。

#### 2. 地域が一体となった事業の推進

- ◆ 実行委員会には商工会議所や行政、観光協会、企業が参画。当日は地元大学生等がボランティアスタッフとして多数参加している。
- ◆ イベントの開催にあたっては、まちをあげたおもてなし。商店街との連動企画（空き店舗のシャッターに映像を投影するアートイベント）や飲食店による限定メニューの提供、参加者に限定クーポンを配布する等を実施している。



▲ 普段は立ち入ることのできない特別な撮影スポット（工場等）の開放やプロの撮影講座なども実施



▲ 約7割が室蘭市外からの参加。交流人口の拡大につながっている

# 今治商工会議所（愛媛県）

きらり特別賞  
(スポーツツーリズム)

## クリテリウムレースで

「今治を世界中のサイクリストの聖地に！」

### 受賞者概要

- ◆ 1999年に今治市と尾道市（広島県）の間に橋が架かり、瀬戸内海横断自転車道（しまなみ海道サイクリングロード）が全線開通。これにより自転車で本州と四国を行き交う事が可能になった。
- ◆ 2019年11月には、しまなみ海道サイクリングロードが国の「ナショナルサイクルルート」に指定された。現在では国内外問わず多くのサイクリストが訪れるようになっている。

### 功績点

#### 1. 地域資源を活用した新たな観光資源づくり

- ◆ 今治商工会議所では、しまなみ海道沿線と中心市街地との観光格差を埋めるための起爆剤として、港を核とする中心市街地で四国初となるプロレーサーによるスピードレースの“クリテリウム”を開催した。
- ◆ 港を核とした1周1.43 Kmを32周するコースを設定。「サイクリストの聖地今治」の認知度を向上させ、観光客誘致・地域活性化を図るとともに、中心市街地のにぎわい創出を目指した。
- ◆ 港と商店街が近い“潮待ち今治”の風情を盛り込んだクリテリウムコースは、訪れた人が今治に宿泊して観光とグルメ、お土産を求めて楽しむ、自転車特化型のまちの観光資源となった。

#### 2. 地域を巻き込んだ取り組みと自治体との連携

- ◆ 事業には商店街組合、観光協会、青年会議所（JC）等が参画。オール今治体制を構築し、資金・マンパワーを確保した。事業の名誉顧問には県知事と市長が就任し、行政も事業に協力。自治会長・漁協・バス・タクシー・フェリー・愛媛県警に承諾を得て交通規制が可能になったことで、クリテリウムレース事業が実現した。



▲オープニングには市民ランナーも参加。事業を盛り上げた



▲観客は選手が競い合う迫力のあるレースを間近で観戦できた



▲マスコミへのプレスリリースには、今治商工会議所の阿部会頭(右から2人目)も参加した

# 八女商工会議所（福岡県）

## 八女福島観光プロジェクト

～古民家ホテルを核とした地域活性化と観光の展開～

### 受賞者概要

- ◆ 八女市では人口減少が顕在化し、地域経済存続のための基盤が失われる危機に直面。八女商工会議所は、この課題を解決するため、「交流人口増による、地域経済の活性化」をキーワードに活動を開始した。
- ◆ 2017年当時、市内には観光客が宿泊できる施設が少なく、宿泊客は近隣市に流出。市内に魅力ある宿泊施設を創出し、宿泊滞在型観光を実現するため、市内の空き家となっていた古民家を改装。「八女茶の産地ティーホテル」をコンセプトに2020年4月に「NIPPONIAHOTEL八女福島商家町」を開業。

### 功績点

#### 1. 宿泊滞在型観光づくりの効果が周辺に波及

- ◆ 古民家ホテル開業後、周辺商店街の売上が大きく増加し、新規出店が増加した。加えて、後発の古民家ホテル2棟が開業したほか、移住者も増加。古民家ホテルの開業が周辺地域に好影響を及ぼしており、地域経済の拡大に貢献している。

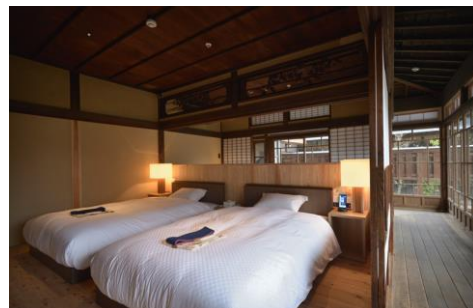
#### 2. 地域資源を活用した追加施策により観光地としての魅力をさらに向上

- ◆ 市内に点在する観光地を結ぶ電気自動車周遊コースの設置、八女茶カフェの常設等、次々に追加施策を実施。観光地としての魅力向上を図っている。
- ◆ 2021年より福岡県主催の検討会に参画。地域資源である八女茶を活用した地域の観光アクティビティの開発を行うなど、観光地としての魅力向上を図っている。
- ◆ 八女茶発祥600年を迎えた歴史ある観光資源の継続発展を目的に、八女茶ソムリエスクール事業を開始し、人材育成や観光受入体制の強化に取り組んでいる。

きらり特別賞  
(地域資源再興)



▲伝統的建造物群保存地区内の古民家を改装したNIPPONIA HOTEL  
八女福島商家町



▲古民家ホテル内は現代風に改装され、快適に滞在できる



▲季節に応じたアレンジティーは呈茶イベントで楽しめる

# 八戸・久慈・宮古・釜石・大船渡商工会議所（青森県・岩手県）

## マンガを活用した三陸沿岸道路沿線の飲食店PR事業

### 受賞者概要

- ◆ 受賞した5つの商工会議所が位置する三陸沿岸地域は三陸復興国立公園に指定されており、リアス式海岸の美しい海岸線が連なる風光明媚な景勝地として知られている。
- ◆ 八戸のサバや大船渡のサンマなど日本でも有数の水揚げを誇る漁港を有しており、新鮮な海産物を使った料理を提供する飲食店も多いが、近年はコロナ禍による観光客数の減少や主要海産物の水揚げ量減少など厳しい経営環境が続いている。
- ◆ 2021年、三陸沿岸道路（復興道路）が全線開通。地域間交流が活発化しているほか、沿線地域では次々と新しい道の駅が整備されるなど観光面での利活用促進が大いに期待されている。



▲三陸沿岸道路の全線開通を契機に5商工会議所の連携事業が始動

### 功績点

#### 1. 復興道路でつながる5つの商工会議所が連携

- ◆ 三陸沿岸道路（復興道路）の開通を契機に、「マンガを活用した三陸沿岸道路沿線の飲食店PR事業」が始動した。
- ◆ 実施にあたっては、青森県・岩手県の5商工会議所（久慈・八戸・宮古・釜石・大船渡）が連携して実行委員会を結成している。
- ◆ 実行委員会には岩手県県北広域振興局や岩手県沿岸広域振興局も参画。積極的に事業内容に対する意見を述べているほか、資金面の支援など、上記5商工会議所と連携している。

#### 2. 「マンガ」を活用した独自のPR

- ◆ 三陸沿岸道路から市街地への誘客を図るだけでなく、コロナ禍で苦境に立つ飲食店の支援につなげるため、「食」をテーマに事業を検討した。
- ◆ 既存の飲食店ガイドブックやグルメマップと差別化するため、「マンガ」を活用。これにより、「よりマニアックに！よりコアに！」、飲食店の魅力を広くPRしている。



▲漫画家と商工会議所職員が実際に店舗を訪れ、取材



◀漫画を活用して、飲食店の魅力をPR

## 新潟商工会議所（新潟県）

## “みなとまち新潟”の観光資源である「新潟古町芸妓」の周知と利用促進

## 受賞者概要

- ◆ 新潟空港では、コロナ禍で停止していた国際線（台北線・上海線・ソウル線）が再開。大型クルーズ客船の来航も復活する等、新潟市のインバウンド観光は回復しつつある。
- ◆ 新潟市に本社をおく航空会社トキエア株による札幌（丘珠）・仙台・神戸等各地域への就航が予定されているほか、新潟駅及び駅周辺のリニューアル工事も進められており、国内旅客についても利便性の向上による新潟への誘客促進等での経済効果が期待されている。
- ◆ 新潟市では、新潟駅から古町地区までの都心軸を「にいがた2km」と名付け、このエリアの活性化を市全体の発展に繋がれたいとして様々な都市開発やまちづくりに取り組んでいる。

## 功績点

## 1. 官民が連携した技芸の伝承支援

- ◆ 新潟商工会議所が中心となって「古町芸妓育成支援協議会」を発足させ、技芸伝承や地域内外への情報発信、利用促進のための事業を行っている。
- ◆ 本協議会は新潟市のほか、新潟観光コンベンション協会や柳都振興後援会、新潟三業協同組合等で組織している。

## 2. 古町芸妓を活用した商店街のにぎわい創出等

- ◆ 白山神社祭礼の日に古町芸妓が行列をつくって古町通を練り歩き、多くの人が見る様子を見に来たという“江戸時代のファッションショー”を再現したイベント「古町芸妓の練り歩き」を実施した。
- ◆ 料亭や芸妓になじみが薄いと思われる20～30代に限定し、料亭の食事・日本酒飲み比べ・芸妓のおもてなしを特別価格で提供することで、若い世代に魅力を知ってもらい、その後の中長期的な消費喚起に繋げることを目的に「料亭文化体験会」を開催した。



▲ 稽古の成果発表会「華つなぐ道」を毎年開催している



▲ 古町芸妓が一般参加者とともに商店街を練り歩いた



▲ 芸妓になじみが薄い若手の顧客開拓のため、「料亭文化体験会」も実施している

# 諏訪商工会議所（長野県）

## 諏訪賑わい創出・資源開発「おしなそば」プロジェクト

### 受賞者概要

- ◆ 諏訪商工会議所は、2010年度「当地を知り尽くす『すわ通りズム』を推進」で「きらり輝き観光振興大賞」において、振興賞を受賞。以降も、自治体の枠を超えた地域・官民連携による観光振興事業に取り組んできた。コロナ禍には、諏訪市の基幹産業である工業にスポットを当てた観光に取り組んだ。
- ◆ 2022年、官民が連携し、総合的・長期的視点でまちの将来像を示す「観光ランドデザイン」を作成。自治体や観光協会・商工会議所だけではなく、市民や民間の力を総動員した観光振興に挑戦している。
- ◆ 課題は「通過する観光地」から宿泊・飲食など「+αの1食」から「+αの1泊」につなげる仕掛けづくり。

### 功績点

#### 1. 「地域ならではの」資源を活用した商品造成

- ◆ 2021年、「食」で地域を元気にしようという3名の女性が提案。プロジェクトは諏訪商工会議所が主管。メンバーは、飲食関係の事業者や、味噌・伝統野菜生産者組合、自治体職員等。
- ◆ 諏訪市内には「蕎麦」の提供可能店舗は30店舗以上あり「蕎麦の新名物」は提供可能性・誘客効果が高いと仮定。そこで、諏訪市ならではの伝統的な地域資源（蕎麦・味噌・伝統野菜）を組み合わせた新名物「おしなそば」を開発した。

#### 2. 地域に古くから根付く地域資源の再興

- ◆ 伝統野菜「上野大根」は生産者の高齢化により生産・流通量が減少傾向にあった。「おしなそば」によって新たな活用先が生み出されたことで、生産者組合からも全面的な協力を得ることに成功。
- ◆ 地域ならではの資源を組み合わせ、商品として表現することで、その資源のポテンシャルを最大限に発揮させ、地域資源の再興に寄与している。



▲諏訪市上野地区で約300年前から栽培されていた伝統野菜「上野大根」を使用している



▲開発段階から地元紙に取り上げられる等、“愛される名物”となっている

# 飯山商工会議所（長野県）

## COME DISCOVER IIYAMA

### 地域力発信！インバウンド向けプロモーション事業

#### 受賞者概要

- ◆ 飯山市では、コロナ禍で観光客数が以前の60%程度まで落ち込んだが、2022年度には2020年3月比90%程度まで回復した。
- ◆ 観光客数が落ち込んでいたコロナ禍中には、「サイクルツーリズム」やカヌー・ボートといった水辺レジャー等、三密を避けられるアウトドアアクティビティの推進を図ってきた。
- ◆ 近年はインバウンドを取り込むため、飯山市ならではの地域資源（スキー場、かまくらの里等）のアピールに力を入れている。

#### 功績点

##### 1. 体験型観光・長期滞在の促進するため、「地域ならではの」を発信

- ◆ 「COME DISCOVER IIYAMA 地域力発信！インバウンド向けプロモーション事業」では、地元の風景、アクティビティ、日常生活等を紹介する動画を作成。WEB上で公開している。
- ◆ 動画には、体験やアクティビティを多く取り上げ、体験型・長期滞在型観光の促進を図っている。また、動画の作成を通して、地域の自然や歴史、伝統産品等の観光資源化につなげている。

##### 2. インバウンド誘客に向け、地元在住の外国人の視点を活用

- ◆ インバウンド需要を取り込み、穴場を探すインバウンド客のニーズに対応するため、外国人ならではの視点を活用。飯山在住の外国人5人が自分の大切な人（友人、知人、家族など）に、オススメしたい飯山ならではのものを取り上げている。
- ◆ 本事業で「雪ちゃり」（スキー場のゲレンデを自転車でするアクティビティ）や「かまくら」を紹介。このことで、これまで外国人の利用が少なかった施設に、訪日外国人の予約が入る等、取組の成果が見え始めている。



▲地域在住外国人の視点を活用。インバウンド外国人が好みそうなアクティビティ等を発信している



▲「かまくら」や「雪ちゃり」等、飯山ならではのものを紹介



# 鹿沼商工会議所（栃木県）

## かぬまシウマイでまちおこし

奨励賞

### 受賞者概要

- ◆ 鹿沼商工会議所ではコロナ禍の食のまちおこし事業を考察。鹿沼市に隣接する宇都宮市には、コロナ禍においても餃子の食べ歩きを気軽に楽しむ若者が足を運んでいた。
- ◆ シウマイで有名な株式会社崎陽軒の初代社長である野並茂吉氏が鹿沼市出身であるという縁に着目。崎陽軒と連携し「かぬまシウマイでまちおこし」事業をスタートさせた。

### 功績点

#### 1. 地域資源を活用した新たな地域の魅力づくり

- ◆ 2021年9月には東京藝術大学の支援を得てJR鹿沼駅前に石彫家・石井琢郎氏によるシウマイ像を設置。まちのシンボルとなった。SLコラボイベント、駅舎にオリジナル冷凍シウマイ自販機、顔出しパネル等を設置している。
- ◆ 餃子像のある宇都宮駅とシウマイ像のある鹿沼間を1日50往復運航する主要バス路線を「シウマイ餃子ライン」と命名。フリー切符も販売し、ラッピングバス、行灯がシウマイのタクシーも導入し旅行商品も販売している。

#### 2. 地域一体となって魅力を発信

- ◆ マスコミの露出効果だけで10億円、2022年末の時点の経済効果は5億5000万円、首都圏での認知度は13.5%になった。JR、東武鉄道と連携したイベントを開催し、都道府県魅力度ランキングも躍進している。
- ◆ 市内の学校給食では、シウマイメニューを提供。高校でオリジナルシウマイの開発・商品化を進め、支援学校ではダンスなども発表、警察でもシウマイオリジナルステッカーを作るなど、まち一丸で観光推進している。

#### 3. シウマイが名物として定着

- ◆ 事業開始前は5軒だったシウマイ関連商品取扱店が現在では70軒に増加。
- ◆ 冷凍シウマイ、総菜のオリジナルシウマイ等を開発。木工・金属加工とも連携し、オリジナルシウマイ蒸し器等も開発している。



- ▲ かぬまシウマイ博覧会を2023年12月2日に地元で初開催。来場者は約4,000名で大盛況となった。



- ▲ 鹿沼駅と宇都宮駅を結ぶ「シウマイ餃子ライン」にはラッピングバスも導入されている



- ▲ 食べ応えのあるかぬまシウマイは市内約50軒の飲食店で楽しめる

# 佐原商工会議所（千葉県）

奨励賞

## まちぐるみ かき氷コレクションin 佐原スタンプラリー事業

### 受賞者概要

- ◆ 佐原では伝統文化を活かしたまちづくりを展開。まちづくりを推進する人たち自体が観光資源という考えのもとに、さわら舟巡り・雛舟、五月人形めぐり等、様々な取り組みを通じ通年で「まちづくり型観光」に取り組んでいる。
- ◆ 佐原商工会議所は地域のまちづくり団体のプラットフォーム的役割を果たしており、NPO法人、まちおこし会社など多くのまちづくり団体等の各団体の調整や、合意形成を推進。

### 功績点

#### 1. 伝統文化を活かし、まちぐるみで行うまちづくり

- ◆ 佐原商工会議所は、かき氷コレクションの商標を保有する日本かき氷協会と連携。2018年から、まちなかの土蔵を会場に事業をスタートさせた。
- ◆ 2021年からは、密を避けるため、歴史的まちなみを中心としたエリアでのかき氷提供店を巡るスタンプラリーを実施。実施期間は3カ月（佐原地域の閑散期である7月～9月）にわたる。
- ◆ 地酒、醤油など「発酵のまち」であった特性や、地元農家と連携した果物を活用するなど、独自のかき氷を提供。

#### 2. デジタル活用による旅行体験の価値向上

- ◆ スマホアプリやスタンプラリー受付については企業と連携。22年からは通常のスタンプラリーに加え、スマートフォンを使用したデジタルスタンプラリーも並行して実施している。
- ◆ スタンプラリーに必要な地域の観光資源情報や、個店情報、目的地への誘導案内を実施し、旅行体験の価値を向上させている。

#### 3. 事業実施によりかき氷が定着し、高付加価値化

- ◆ 事業開始時点のかき氷の単価は、500円程度であったが、現在では3倍近くまで上昇。通年でかき氷を扱う店舗も出てきている。



▲地酒や醤油、地元果物等、様々な素材を活かしたかき氷が楽しめる

## 周南地域広域連携 産業観光ツアー

### 受賞者概要

- ◆ 周南地域（周南市・下松市・光市）には全国有数のコンビナートがあり、知名度の高い企業や地域密着企業が数多く立地している。これらを観光資源として生かし、地域活性化につなげたいとの思いから産業観光ツアーを企画。
- ◆ 地域では、キラーコンテンツの磨き上げや集客コンテンツ(イベント等)の充実、新たな観光商品づくり等に取り組んでいる。

### 功績点

#### 1. 広域連携による持続的な事業展開

- ◆ 広域連携特別事業として周南地域の4商工会議所（新南陽、徳山、下松、光）で連携。全国でも有数の石油化学コンビナート地帯で、産業が集積していることから、2005年から産業観光ツアーを実施している。
- ◆ 2022年度までに321コースを開催し、8,108人が参加した。ツアーアンケートでは好評を博し、毎年多くの申し込みがある。
- ◆ 小中学生、親子向け、体験ができるコース、日本酒の酒蔵めぐり等、地域の特産品を対象にしたもの等、様々なコースを実施している。

#### 2. 会員事業所、自治体等との密接な連携、協力体制の構築

- ◆ 新南陽商工会議所に周南地域4商工会議所事務局を置き、各会議所の会員事業所および中国経済産業局、山口県、周南市、下松市、光市で産業観光委員会を構成。
- ◆ 各自治体からは公営施設の見学の許可および補助金の援助等の協力を得ている。

#### 3. 地域活性化に貢献

- ◆ 事業の実施が関係人口の創出・拡大に貢献。新たなクルーズ船就航の誘致等地域の活性化にも寄与している。



▲セメント南陽工場見学では普段見られない工場内部まで見学できる



▲施設見学だけでなく、こんにゃくづくり等を体験できるコースも開催



▲日本酒酒蔵めぐりコースには多くの一般客が参加した